

West Breeze

Hiroshima City University's founding principle is to become an international university which contributes to world peace and to the prosperity of the community through education and research in science and art.



No. 095
Apr. 2025
広島市立大学
広報誌

Hiroshima City University

本学における学位取得者 ※敬称略

本学大学院における博士学位取得者(2024年度 春季修了)

情報科学研究科	博士(情報工学)	WANG LE
芸術学研究科	博士(芸術)	亀川 果野
	博士(芸術)	村上 明花里

2025年度学年暦 前期(4月1日~9月30日)

4月1日(火) — 2日(水)	7日(月)	春季休業
2日(水) — 8日(火)	7日(月)	春季入学式
8日(火) — 11日(金)		オリエンテーション・定期健康診断
11日(金) — 14日(月)		前期授業開始
5月1日(木) — 7日(水)	9日(水)	前期履修登録期間
7日(水) — 14日(土)		火曜日の授業実施
14日(土) — 17日(火)		月曜日の授業実施
17日(火) — 24日(水)	6日(金)	第1ターム試験期間
24日(水) — 25日(木)		開学記念日
5月25日(木) — 26日(金)	8月8日(金)	前期定期試験
26日(金) — 27日(土)		夏季休業
5月27日(土) — 28日(日)	9月30日(火)	全学休業日
5月28日(日) — 29日(月)		秋季卒業式
5月29日(月) — 30日(火)	10月2日(木)	後期履修登録期間
5月30日(火) — 31日(水)	7日(火)	

ICHIDAI NEWS

多数の市大生が活躍しています。最新のニュースはウェブサイトからご覧ください。

学生表彰		メディア・受賞	
ニュース		イベント情報	

West Breezeについての
ご意見やご感想はこちらへ
Mail kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp
Tel 082 (830) 1666 Fax 082 (830) 1656

West Breezeの最新号・バックナンバーはウェブサイトからご覧いただけます。

広島市立大学 広報誌のタイトル「West Breeze」は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。
[West Breeze 95号] 編集・発行/広島市立大学 広報委員会 発行日/2025年4月1日



役員等選任(変更分)

理事長・学長/前田香織、理事・副学長(学術・社会貢献担当)/永山忍、理事・副学長(教育・学生支援担当)/国際センター長・教育基盤センター長/卜部匡司、情報統括センター長・大学評価・IRセンター長/市原英行、副理事(学生支援担当)・心と身体の相談センター長/中村圭、副理事(教育推進担当)/森田光宏、副理事(教育支援担当)・芸術資料館長/前田力、副理事(国際担当)/大場静枝、副理事(研究推進担当)/田村慶一、附属図書館長/高野知佐、情報科学研究科副研究科長/内田智之、情報科学研究科副研究科長/小畑博靖

教員の人事異動

退職・退任

国際学部教授/寺田英子、情報科学研究科教授/岩城敏、情報科学研究科教授/高濱徹行、芸術学部教授/伊東敏光、芸術学部教授/森永昌司、広島平和研究所教授/ロバート・ジェイコブス、広島平和研究所特任教授/佐藤哲夫、教育基盤センター特任教授/國本善平、情報科学研究科准教授/青山正人、情報科学研究科准教授/若根典之、情報科学研究科講師/馬場雅志、芸術学部講師/菅亮平、芸術学部講師/原崇浩

新任

国際学部教授/奥西有理、国際学部教授/佐藤敦郎、広島平和研究所教授/佐藤史郎、地域共創センター特任教授/河合孝尚、情報科学研究科准教授/河田人美、情報科学研究科准教授/白石允持、情報統括センター准教授/秋山剛志、芸術学部講師/大庭弘樹、芸術学部講師/大島由起子、芸術学部講師/大東忍、芸術学部講師/マシュー・フィン、芸術学部講師/山本聖子、広島平和研究所講師/大下幸、広島平和研究所講師/森上翔太、大学評価・IRセンター講師/齊藤真、情報科学研究科助教/山口隼平、情報科学研究科特任助教/林辰開

昇任

国際学部教授/古澤高朗、情報科学研究科教授/池田徹志、情報科学研究科教授/小畑博靖、芸術学部教授/荒木亨子、芸術学部教授/石黒賢一郎、芸術学部教授/田中圭介、芸術学部教授/中村圭、芸術学部教授/野田睦美、国際学部教授/藤原優美、情報科学研究科准教授/香田次郎、芸術学部准教授/城井文、広島平和研究所准教授/加藤美保子、地域共創センター准教授/三上賢治、情報科学研究科講師/マーク・アウレル・カストナー

表紙作品

2024年度
造形芸術専攻油絵研究領域 修了
三坂 日奈子
[明け方の箱庭]
F150号
H1818×W2273 mm
2024年度 修了制作優秀賞/
芸術資料館賞上げ作品



〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
Tel 082 (830) 1500 (代) Fax 082 (830) 1656
https://www.hiroshima-cu.ac.jp/

新学長に 聞きたい!

このたび第4代理事長・第6代学長に就任した前田香織氏に、これまでのキャリアや今後のビジョンなどについて聞きました。

本学ウェブサイトでは学生が制作した新学長インタビュー動画を公開しています。



まえだ かおり
前田 香織 理事長・学長

1982年、広島大学総合科学部総合科学科卒業。博士(情報工学)。広島市立大学情報科学部助手などを経て、2000年、同大学情報処理センター助教授、2007年に同大学院情報科学研究科教授、情報科学研究科長・情報科学部長などを歴任。特任教授(CDO)、理事長補佐も務め、2025年4月、理事長・学長に就任。専門は情報ネットワーク、インターネットアーキテクチャ。

—— 昨年度の2024年10月に次の理事長・学長に選ばれて以降、理事長・学長になるという実感はいつごろからわいてきましたか。

前田 理事長・学長(以下、前田) 実感というか、選考結果が公表され、学内外から祝辞を頂くようになってから、がんばらないといけないという、身が引き締まるような思いが強くなりました。

—— 広島市立大学には1994年の開学から在籍していますが、本学の変わらないものと変わったものは何だと感じますか。

前田 本学の設置構想は、広島大学の広島市から東広島市への移転が始まった1980年代に持ち上がり、地域を大切にしながら広島から世界へ発信していける広島市の知の拠点となるべく1994年に開学しました。私自身は研究者として、昔も今もこの期待に応えたいと思ってやってきましたし、大学としても、根本的な使命は変わっていないと思っています。一方で、本学に限らず日本全国の大学に求められているものが変化してきています。昨今は国立、公立、私立によらず、大学や学生による即効性のある地域貢献が求められているように感じます。ですが、例えば学生でいうと、すぐに使える汎用性のあるスキルだけを身に付けたジェネラリストになるのでは、大学の本来の意義を生かしているとはいえません。大学は、あくまで専門性を磨く所。学生が大学で身に付けた専門的な知識や技術を社会で生かし、どんな目標に向かって何を生み出せる人材になるのか、ということを見据えた教育研究をするのが大学ですし、そこそが開学時に本学に期待されたことでもあったと思うのです。

—— 教育研究の成果を、短期的だけでなく長期的な視点からも見るということですね。

前田 そうです。大学自体にとっても同じです。今日、少子化対策をしつつ大学の質を保つという厳しい課題に向き合わなければなりません。各大学が単独で生き残りのための競争をするのではなく、本学を含めた複数の大学がそれぞれの専門性を持ち寄り、官産とも手を携えて、みんなで協働して地域に貢献していく。成果が出るのに何年もかかることですが、そうした地域ぐるみの取り組みによって、結果的にはそれぞれの大学が力をつけることになるし、広島広域都市圏をはじめとした社会の課題解決や活性化、持続的発展にもつながると考えます。

—— 社会貢献といえば、ご自身も本学に着任後、1990年代の広島市のインターネット環境整備に携わ

りました。情報ネットワークやインターネットアーキテクチャが専門分野ですが、いわゆる理系科目はもともと得意だったのですか。

前田 中高で女子校に行ったのですが、「女子は理系が苦手」の固定観念が強かった時代で、私自身は理系の科目が嫌いではなく、なんだか得意な気分になっていたのでしょうか。それもあって、進学した広島大学総合科学部でも情報数理を専攻しました。卒業後は、縁あって広島大学工学部第二類(電気系)の助手と放射線影響研究所(放影研)のコンピューター



本学の情報処理センターにて(1996年)

技術員を務めて、本学に着任しました。日米政府が共同運営する放影研では、当時アメリカですでに使われていたインターネットを導入する仕事を任せられ、本学着任後は、「西広島ネットワーク・オペレーションズ・センター(NOC)」という広島初のインターネット拠点を本学に設置し、広島大学に設置された東広島NOCと一緒に地域のネット環境を構築しました。どちらもゼロを一にする大変な仕事でしたが、いつも地元他大学や行政や企業とそれぞれの専門性を持ち寄って、産学官一体で取り組みました。

—— その時の経験が、先の話に出た、産学官の垣根を越えた地域全体での連携という発想につながってくるのでしょうか。

前田 自分では気付いていませんでしたが、そう言われたらそうかもしれません。もちろん、本学はこれまでも、垣根を越えた連携をやってきています。国



際学部や情報科学部は自治体や企業などと連携・協力し、芸術学部は芸術活動をおして地域活性化に携わり、広島平和研究所はほかの研究機関やメディアとも共同で研究やその成果の社会還元をしてくれています。ただ、そうした取り組みが学外の方々にまだまだ知られていないと痛感します。本学のことや存在そのものについて、もっとうまくアピールする必要がありますね。

—— 長年所属していた情報科学研究科だけでなく、ほかの学部など本学全体のことに常日頃から関心を向けているんですね。多趣味であるなど、もともと好奇心旺盛なのでしょうか。

前田 多趣味ではないのですが、子ど

ものころから大学までピアノを習い、社会人になってから5年余り、呉市出身の日本画の先生の教室に通っていました。今はもうどちらもしていませんが、今でも演奏会や展覧会にはよく行きます。広島県立美術館とひろしま美術館での展覧会を無料で鑑賞できる高等教育機関向け会員制度「美術館キャンパスメンバーズ制度」は重宝していますし、同僚である本学芸術学部の先生方の展覧会にも家族で足を運びます。音楽などほかの分野でも、広島は「平和」に関心のある芸術家が世界中から来てくれる都市なので、いろんな展覧会や演奏会に行けるのがいいですね。

—— 本学だけでなく、ご自身が生まれ育った場所でもある広島市に愛着を持っていることが伝わってきます。最後に本学の学生、教職員の皆さんにメッセージを。

前田 学生たちにはまず、本学に学びに来てくれて「ありがとう」と言いたいです。それから、本学で過ごしたことを誇りに思ってもらえたらいいですね。大学で学ぶ価値は、4年で結果を出すことではありません。じっくり考えたり悩んだり、時には失敗もするでしょうけど、そうしたプロセスこそが糧になるし自信にもつながると思います。教職員の皆さんにも、本学で働いてよかったと思ってもらいたいです。学生にとっても教職員にとっても誇りとなる、そんな大学にしていきたいよう、皆さんと一緒にさまざまな課題に取り組んでいきたいと思っています。

ご入学の皆さんへ

学長、各学部長、研究科長から新生に贈るメッセージ

「広島市立大学へ入ってよかった」と思えるように

ようこそ、広島市立大学へ。皆さんの入学を心から歓迎します。

広島市立大学は広島市における公立の学術研究機関の設置を期待され、1994年に開学しました。当時この地域には無かった学問分野の学部・大学院をつくりました。広島の地からそれぞれの分野の専門家が育ち、多様な形で社会に貢献することが期待されています。

開学当時はインターネットがまさに普及し始めたときでした。開学年に「第12回アジア競技大会広島1994」が開催されたことから、世界で初めて日本語と英語で競技結果を速報するウェブサイトを開発しました。また、大会期間中、世界にほとんど例のないデジタル美術館を開設し、芸術学部の教員の作品を鑑賞できるようにしました。インターネットによるこうした発信は世界中から大きな反響でした。翌年は被爆50年に当たる年で、地域の大学や企業とプロジェクトを組み、平和記念式典の映像と5カ国語の音声インターネットでライブ中継しました。もちろ

理事長
学長
まへだ かおり
前田 香織



顔がライブ映像のアパタでめぐる仮想美術館(1994年)



ん、これも世界初です。デジタル美術館は当時最先端のVR技術を使って、30年前にすでにアパタで巡る仮想美術館に進化していました。

他にも地域、世界に向けて、本学の成果を出してきたことがたくさんあります。いずれも各学部、研究科での学び、研究、創作活動の結晶です。狭い領域でもよいですから、その領域なら他に負けない自分の強みを作ってください。それはそれぞれの学部、研究科でしっかり学び、研究や創作活動を通してできます。昨年、AIですぐに答えを出したり、SNSですぐに既読を求めたりがちですが、大学では物事にじっくり取り組んでください。

皆さんが、本学を卒業した後に、「広島市立大学で学んでよかった」と思ってくれるように、教職員一同、がんばります。

Challenge yourself to do what you can here in Hiroshima and out in the world

国際学部長
国際学研究科長
おおば ちえこ
大庭 千恵子



日本被団協がノーベル平和賞を受賞した2024年、国際学部の夏期集中講座HIROSHIMA and PEACEには、世界各地からの受講生が5年ぶりにキャンパスに集まりました。英語による講義を共に受講し、8月6日平和記念式典への参列や被爆証言の聴講、次世代が国境を越えて語り合う場は、留学とは一味違う国際体験です。日本語であれ外国語であれ、生成AIが急速に浸透する時代だか

らこそ、自分で考え自分の言葉で伝えることに意味があるのですから。

また、2025年度入学の皆さんには、国際学部で英語または社会科学の教員を目指すという、新たな選択肢も増えました。国際学部でのさまざまな体験、柔軟な思考力を磨くための学びを通じて、一人一人の関心や目標に応じた選択肢と可能性を、このキャンパスで見出してください。

情報科学の未来を生きる君たちへ

情報科学部長
情報科学研究科長
いしみつ しゅんすけ
石光 俊介



広島市立大学はAIが世の中に広まるずっと前、30年前に情報科学部を立ち上げました。恒久の平和を見つめ未来を照らすようにして立ち上げられた学部です。遠くを照らす灯台が荒波に耐えるように、30年かけて皆さんに情報科学を教育する基礎を築いてきたのです。AIも電卓のように作業効率化の道具として使われるようになりました。AIを道具とするヒトには何

が求められるのでしょうか。自分が何をやるのか覚悟がないうちに、世の中のほうが動いていく時代と感ずるかもしれませんが、しっかりと基礎を築いてきた情報科学部が灯台のように皆さんの未来を照らします。本学で知識の基礎を築いて未来の自分をしっかりと建設してください。期待しています。

地球への影響力

芸術学部長
芸術学研究科長
よしだ ゆきひろ
吉田 幸弘



皆さんは20年ほど前に生を受けました。そのときに地球の歴史はほんの少しだけ変わったはず。とりわけ、お母さんお父さんの歴史はそのとき、確実に変わったと思います。そして自身の歴史も、本学に入学したことで変わったと思います。自分が芸術の道を目指そうとしたときのことを思い返してみてください。絵画や彫刻、世の中のあらゆる出来事に影響

され、この道を選び、あなたはここにあります。今後、あなたが表現し、作り出すものは、必ず周りの人たちの人生に影響を与えていきます。

そんなことを考えると、皆さん一人一人に、地球の歴史を変える可能性があります。そのことを認識し、いつまでも忘れないでいてほしいと思います。

核も戦争もない世界への道のりを考えよう

平和学研究科長
おおしば りょう
大芝 亮



新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年には「被爆80年、戦後80年」です。2024年にノーベル平和賞を授与された日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)は、受賞講演において「核も戦争もない世界を共に」と呼びかけました。核兵器廃絶はもちろん容易なことではありませんが、米国が広島と長崎へ原爆を投下して以降、戦時に核兵器を使用した国はありません。これは、

核兵器を使用してはいけないという規範(「核のタブー」)が発展してきているからだと考え人もいます。

平和については、国際政治学や国際法はもとより、歴史や思想など、さまざまな分野から議論がなされてきました。被爆地にある広島市立大学に学ぶ者として、ぜひ核も戦争もない世界への道のりについて考えてほしいと思います。

在学生、卒業生を問わず、国内外のさまざまな分野で活躍する「市大人」を紹介します。

活躍する市大人

本学を卒業後、人材スカウトを行う企業の法人営業などを経て、広島で株式会社B.W.Networksを創業し代表取締役を務める堀川光生さんにお話を伺いました。



20代で起業、広島を強くする挑戦

ほりかわ こうせい
堀川 光生 さん
国際学部国際学科 2018 年度卒業

—— 株式会社B.W.Networksの事業について教えてください。

広島で、人材紹介(エージェント)、人材コンサルティングを行っています。新卒の方の就活支援、若手の転職支援を中心に、キャリア形成のご支援と、若手の採用を意図する企業さまに、採用戦略や手法のコンサルティングを行い、人材面から広島という街を強くしていくことを目指しています。

—— 株式会社B.W.Networksはどのような経緯で起業されたのでしょうか。

広島は現在、転出超過が4年連続日本一で、どんどん人材が外に出ていっています。街も企業も、そのエネルギーの源泉になるのは「人」ですから、人口流出という問題に対して、何か自分のビジネスで貢献できたらと考えました。

—— 仕事のやりがいについて教えてください。

自分の専門性とスキルを持って、いろんな方の人生の契機に関わることができる点です。人材のアセスメントや、キャリア理論を活用しながら、就職・転職という大きな意思決定の機会に立ち会う仕事ですので、責任も伴いますが、求職者の方や企業さまに喜んでいただき、感謝の言葉をもらったときは、本当にやっていてよかったと感じます。またそうした事業全体を通じて、地元広島の人々の力になれている感覚がエネルギーになっています。経営者としてはまだまだ若輩なので、初めて直面する課題や問題解決のための意思決定をしていかなければならない点には難しさを感じることがありますが、そうした壁を越えた先に、もっと実力の付いた自分もいることも分かっているの、苦労も楽しむことができていると思います。



—— 大学での学びが今の仕事につながっていると感じるのはどのような時ですか。

大学時代は紛争解決論のゼミに所属し、特に東アジアの地域主義に関心を持って学んでいました。実際に東アジアの国々に足を運び、理論研究だけでは知り得ない、生の意見や文化に触れたことで「社会人になっても生身の人とちゃんと向き合う仕事したい」と考えるようになりました。求職者の方や企業の方と直接向き合っているときに、相手の心の奥にある本質的なニーズ・課題を把握し、他者を理解していくスタンスは、大学時代の海外経験によって身に付いたものだと思います。言語が違うからこそ、相手の本心を探ろうと模索したことが今の私の強みにもつながっていると思います。

—— 学生生活で力を入れたことや、印象に残っていることはありますか。

FEST-HIROSHIMAという国際協力団体が活動していました。学生団体としてはハードなタスクが多く、人材の定着率が悪かったため、1年生の冬に人事部門を立ち上げました。当時は目先の課題解決に一生懸命に取り組んだだけ、という感覚でしたが、今考えると自分の人材領域への関心は、このことがきっかけで生まれたのかもしれない。

—— 大学生生活の過ごし方でアドバイスはありますか。

たくさん旅をして、たくさん「言葉にできない経験」をしてください。素晴らしい景色を見たときの感動や、人と関わることで生まれる喜び、成功の達成感や、後ろ暗い、誰にも言いたくないような感情も、どんな経験も自分という人格を形作るかけがえのない財産になります。そうした「言葉にできない経験」を言葉にしていくほどに、自分という存在の輪郭がはっきりとしてくるものだと思います。

—— 今後の活動予定や、目標があれば教えてください。

まずは広島で一番の人材会社を目指します。その次に何をやるかは未定ですが、広島を強くするビジネスを、二つ三つと作っていきたいです。

—— 後輩たちへメッセージをお願いします。

「楽なこと」「楽しい」ことは違う、というのは皆さんも分かっていると思います。その上で、大学生活を全力で「楽しんで」ください。市立大学には、そして広島という街にはそのための環境、チャンスがあふれていると思います。皆さんといつか、一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。

市大生にアンケート！市大生活をもっと深掘り！

市大生にアンケートしました！空きコマの過ごし方やお昼ご飯事情など、大学生活のリアルを大調査。その結果をお届けします！

大学に入学してから何か変わった？

- 一人暮らしを始めたことで家事ができるようになった
- アルバイトを始めたことで自由にお金が使えようになった
- いろんな人と交流する機会が増えたことで自分の世界が広がり、コミュニケーション能力が高くなった

国際学部の人ならではの意見も！

- 留学に行ったり、外国の方と関わったりすることが増え、性格が明るくなった

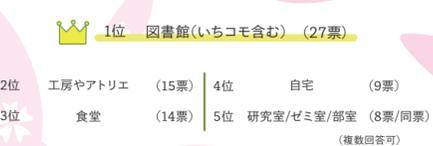
お昼ご飯、どうしてる？

お昼はお弁当持参が最多で、次いで大学内の売店を利用する人が多いようです。他には学食を利用したり、大学外へ食べに行ったり、一度寮に帰って食べるなど、自分なりのスタイルで食事を楽しむ人も。



空きコマはどこで過ごしてる？

空きコマ中は図書館や工房などで課題をして過ごすという人が見受けられ、他には大学外へ行ったり、寝て過ごしたりする人や、大学内の芝生でゆったり過ごすという人もいます。



大学生生活の失敗談～先輩から学べ！～

- ・前日に寝るのが遅くて、午後の講義なのに遅刻して、つい正直に「寝坊しました」と言ってしまった
- ・春ごろ、始業日を間違えてバイトを詰めまくって、1週間ほど授業を欠席せざるをえなくなった
- ・課題を終えるのがギリギリになってしまい、23:59が期限だったが、提出に手こずって24:00になってしまった
- ・メールを確認しておらず休校の知らずに登校した

今回は在学生を対象に大学生活についてのアンケートを実施しました！空きコマを過ごす場所は、国際学部はゼミ室、情報科学部は研究室、芸術学部はアトリエなど学部によって異なる様子も見られました。大学生になると世界が広がり、自由にできることも増えるので、新入生の皆さんは市大生の先輩たちの失敗談も参考にして、しっかりと引き締めつつ楽しい大学生生活を送ってくださいね！

この記事は、学生の目線から本学の魅力を発信することを目的に活動している、学生広報チーム「いちレポ」の広報誌版が作成しました。

